

藤原京右京八条一坊の調査(飛鳥藤原第123次)

橿原市飛驒町において、市営住宅建設の事前調査として2002年7月からおよそ1ヶ月間、約200㎡の発掘調査をおこないました。今回の調査地は藤原京の右京八条一坊西北坪にあたります。この坪は過去の調査によって、整然とした建物配置をもつ藤原宮期の貴族の邸宅であることが判明しています。その建物群の続きを確かめることが調査の目的でした。

調査地の西3分の1は飛鳥川の氾濫により大きく削平を受けていましたが、調査地の中央付近で倉庫と思われる2間×3間で総柱の掘立柱建物を検出しました。この建物は過去の調査でみつかった周辺の建物と位置を揃えており、貴族の邸宅の一部とみなされます。これにより、坪内の計画的な建物配置がより鮮明になりました。

また鎌倉時代の溝や柵のほか、白磁碗と瓦器碗、瓦器皿が重ねて置かれていた土坑もみつかりました。これは地鎮のまつりに伴うものと思われ、中世の土地利用の一端もうかがうことができました。

面積は小さいながらも着実な成果が上がり、担当者はホッと胸をなでおろしています。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部 前岡孝彰)



藤原京の掘立柱建物(北から)